運営組織の改変

東京るべしべ会　世話人代表
佐藤　勉

旧・留辺蘂町出身者から構成される「東京るべしべ会」は、昨年開催された第四十二回総会から、会の運営組織を幹事会から世話人会に変更しました。四十年超えの「ふるさと会」の組織の運命でしょうか、言うなら会長副会長を含めた役員の高齢化・健康問題等から、組織存続の危機状況下になったのは平成二十六年一月の事でした。

その様な危機状況下から救ってくれたのが団塊世代の熱き七人のメンバーでした。先ずは、形骸化しつつあった会の運営を幹事会から世話人会に変更する事。つまり「運営組織の改変」が最初のテーマでした。その様な背景のもと、昨年十一月、新組織による最初の第四十二回総会を無事開催が出来ました。

他ふるさと会も抱える共有の課題、会員の高齢化・健康問題等が有ると思いますが、当会の課題対策として、「スマートなふるさと会」を目指す事になり、具体的には、①会員の皆さんの健康強化策として、「北見市ふるさと会親睦大会」と「オホーツクふるさと会」のボウリング大会参加を公式イベントとし認定する。②若手会員（孫世代）の入会勧誘の強化策として、首都圏へ就職者・就学者予定者に対す支援窓口を設け、密な情報を地元に発信して行く事。③「山の上水族館」等の観光施設等の広報活動に協力する。

以上の事柄を中心に、会員の皆さんと協力し、「北海道の元気なふるさと会」の一員としてとして頑張って行きたいと考えています。

緑の山河天塩で育った大沢投手

東京天塩会　顧問
安岡忠義

天塩町は大雪山の北に聳る天塩岳1558mを源流に北へ流れて、天塩で日本海に注く256km日本第4位の大河の河口に拓けた町です。そのため海の幸・川の幸に恵まれ、昔はこの前浜は鰊が大漁で漁師達は鰊景気で街の紅灯は消えることが無かったと言います。

天塩の開基は明治13年役場が開庁してから今年で135年、東京天塩会も創立35年になり会員の高齢化は避けられず、故郷が恋しくなり5年ごとに行っている故郷訪問の今年、9月末に実施された。

役場への表敬訪問、町の有志との懇親会、旭川の旭山動物園見学、札幌天塩会との交流等々をこなし、5年振りを感じさせない旅でした。

昨年の産直フェアは折り悪くデング熱と台風に遭遇し散々でしたが、今年は10月2～4日（3日間）昨年同様、代々木公園で開催、天塩会も参加した。

第87回（平成27年3月）選抜高校野球大会参加の東海大四高は準決勝まで進み、相手は前に大敗した埼玉の浦和学院でした、投手戦の接戦を制し東海は決勝へ進出した。決勝の相手は福井県の敦賀気比高、8回裏まで1対1の接戦、相手バッターは前日大会初の2打席連続本塁打を打った打者、1死2塁東海の大沢投手の投げた球を、相手バッターは真心でとらえ本塁打となった。東海大四高は9回に夢を託したが実のらなかった。

後で知ったことでしたが大沢投手は天塩出身と聞き驚きました。又浦河第1中学出身の山口聖人選手も東海大四高に居た事を浦河会の記事で知りました。天塩出身の高校球児が又、活躍してくれる事を期待しています。

WEB・モバイル予約
www.airdo.jp

予約・案内センター [6:30-22:00]
0120-057-333
携帯電話から
東京 03-6741-1122　札幌 011-707-1122

AIR DO